

当日のスミイカ仕掛け
 竿 全長2.4m テンヤスミイカ竿
 道糸=PE1.5号
 直結 (ノット)
 小型巻きサルカン
 フロロカーボン4号
 ハリスII 4号
 魚型スツテ (DUEL ウルトラスツテMなど) オレンジ、ピンクなど
 オモリ=30号



▲カワハギ竿やゲームロッドを使う人が多かった

•Tackle Guide
 ダウンショット仕掛けのスミイカ釣りの場合、テンヤスミイカのような極端な先調子の竿でなくとも使える。山下丸はカワハギ釣り竿でなくとも使える。山下丸はカワハギ釣りの客が多いせいか、カワハギ竿を流用している人も多かった。先調子の竿であれば、カワハギ竿やテンヤチウオの竿もこの釣りに使える。もちろんテンヤスミイカ専用竿を使うのもOKで、各自が使い慣れた竿を選ぶのがよいだろう。

墨噴射に注意
 さて、この日は久里浜沖の水深30メートルから開始した。てイカを誘うので、シャクリ方や強さは、あまり神経質になることはない。気をつける点は、待っている間にオモリが動かないようにすること、そのためには糸フケが出るくらいに道糸のテンションを抜くところだろう。

▼モンゴウイカはサイズが魅力



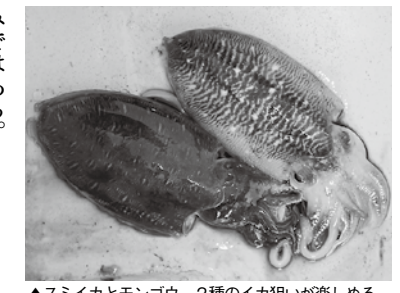
が、ちょうど満潮時ともあって潮がほとんど動かなかった。ひと流した後、船長は竹岡沖への移動を告げる。竹岡沖のポイントには水深23メートル前後、モンゴウイカが狙える場所だ。最初の流しで、大ドモでイカに乗った。タモに収まったのはモンゴウイカ、1キロ半はありそうな大型だ。さて、これからの私の仕事で、写真を撮るためにイカを持つてもらうのだが、モンゴウイカの場合、これが難題だ。なにせ墨噴射がすさまじい、首根っこを強く押さえてつかめばいいのだが、それでは写真が撮れない。スツテを持ってぶら下げてもらおうと、突然に墨を吐くことがしばしばある。案の定、何度かシャッターを押してから角度を変えて撮ろうとした

ところ、大噴射してしまい私は墨まみれに。ごめんなさいと恐縮する釣り人に対し、いやいや私が悪いのですよ、無理を言っただけだから下げてもらったのだからと話しつつ、デッキブラシと海水で墨を洗い流す。下げ潮が効き始めると、ポツポツとイカが乗り始めた。モンゴウイカが多い中、スミイカも顔を出した。500グラムほどの良型だった。これはピントのズレに乗っていた。午後になると潮が止まり、乗りはストップ。船長は鴨居沖の水深30メートルへ移動した。ここはモンゴウイカは交じらない。午後1時半の潮止まりから上げ潮が利き始めると私にスミイカが乗り、ほか何人も乗せる。

この日のトップはスミイカとモンゴウを合わせて4杯だった。今シーズンはスミイカの湧きがい年とは言えないが、2月の低水温期に入り深場に群れが固まってくれれば釣り日もあるだろう。2キロに迫る大型のモンゴウイカが釣れるのも、これからの時期の楽し

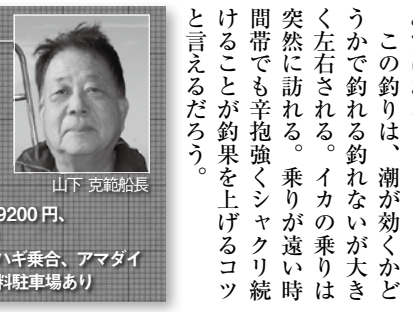
みではある。この釣りは、潮が効くかどうかで釣れる釣れないが大きく左右される。イカの乗りは突然に訪れる。乗りが遠い時間帯でも辛抱強くシャクリ続けることが釣果を上げるコツと言えるだろう。

1ル色と、青(または緑)のナチュラル色の両方を用意する。できれば4色そろえたい。釣り方はシンプルだ。オモリを海底に着けて、糸を張ら



▲スミイカとモンゴウ、2種のイカ狙いが楽しめる

●船宿information
 三浦半島久里浜
山下丸
 ☎046-842-8856
 (詳細は巻末の情報欄参照)
 ▶料金=イカ(スツテイカ)乗合一人 9200円、氷 200円。スツテ、仕掛け販売あり
 ▶備考=予約乗合、7時半出船。カワハギ乗合、アマダイ乗合へも出船。各種仕立も受付。無料駐車場あり



山下 克範船長



▲スツテのスミイカも例年よりやや遅れてスタート



▲カワハギの老舗、山下丸ではこの時期になるとスツテのスミイカ乗合を出す

スミイカシーズンが後半に入ると三浦半島久里浜では乗合が始まる。東京湾のスミイカは秋になると中ノ瀬や木更津沖など湾奥の浅場で開幕する。秋から冬に移るにつれてポイントも南下し、千葉側は大貫竹岡(金谷沖)となり、神奈川側は鴨居(久里浜)下浦沖と広がりを見せる。久里浜の山下丸がスミイカ

を狙うのは鴨居沖以南で釣れ始めるころからで、時期は年によって異なるが年末から年明けにかけてがそのスタートになる。今年も湾奥ポイントでもスミイカ開幕が大幅に遅れていた。その影響もあってか山下丸では1月29日が初日となり、取材に伺ったのは開始2日目の30日だった。

スツテスミイカの釣り方
 スミイカにはいくつかの釣り方がある。古くから行われている生きシャコを使ったテナヤ釣りはその代表的な釣り方だ。ほかにも初期の浅場で多い中オモリと餌木を使った餌木スミイカがある。対して山下丸ではスツテを使った胴つき仕掛けで狙う。現在はこの釣り方はダウン

●三浦半島久里浜へ久里浜へ竹岡沖
 フェッティングライター/伊井泰洋 Yoshitomo Ii
スツテで狙うスミイカ開幕
大型モンゴウイカにも期待

ショット(リグ)と呼ばれることが多いが、元もとダウンショットはブラックバス釣りで枝スを使わない仕掛けのことを指すため、本稿では昔から使われている胴つき仕掛けと表記したい。この仕掛けは捨て糸よりも枝スが長いのが特徴的で、スツテを潮に乗せて海底付近に漂わせることを狙っている。出船時間になり、船は平作川を下って海へ出る。ほとんどの人は今シーズンスミイカ釣りが初めてという。普段イカ釣りはやらないが、この時期だけは山下丸で胴つき仕掛けのスミイカ釣りをするといいファンも多い。道具を見渡すと、テンヤスミイカのタックルを使っているのは私だけで、ほかの人はカワハギ竿やライトゲームロッドなど、全長1.8メートル前後のスマートな竿を使っている。年齢層も比較的若く、テナヤスミイカの船宿とは異なるところが面白い。山下克範船長の話では、昨日はオレングジのスツテが乗ったようだ。「潮が澄んでから青や緑がいいかなと思っただけ、底に濁った潮がかぶったみたいでオレングジがよかった」という。

知得! Tips and Tricks
浮くスツテと浮かないスツテ
 胴つきスミイカで使う魚型スツテは海中でゆっくりと沈下する。海底付近を潮に乗ってフワフワと漂う動きがイカを誘うと思われる。また、市販の魚型スツテには浮くタイプもある(イカメタルのドロップ用など)。こちらは水平バランスを取りながらゆっくりと浮き上がる。かつてモンゴウイカに対し浮くタイプのスツテが効果があった経験から、その後も仕掛けの長さを替えたりしながら浮くタイプのスツテを試してはいるのだが、まだこれといった使い分けパターンが見つからない。これは私の今後の課題となっている。

▲上2本が浮くスツテ(ヤマシタのアッパー)、下2本が浮かないスツテ(デュエルのウルトラスツテ)
 ▲バケツに入れた海水に落とせばスツテの浮き沈みが分かる